

～古賀院長エッセイ～

次代への風



自然の力

先月は日食が観察される日があり、話題になりましたが、見られた方もいらっしゃるかと思います。太陽と月と地球が直線で結ばれる位置にくる時に見られる現象ですが、この時、通常より更に大きな自然力すなわち引力が地上のあらゆるものに働くのです。

古代より日食は不吉な事が起こる予兆として恐れられてきました。実際、世界ではこの時に天変地異、大きな政変が繰り返し発生してきました。単なる迷信とは言えないことは、アインシュタインの重力で光も曲がるという相対性理論から、科学的にも頷けるものがあります。

地上で暮らすということは、様々な自然の力に影響されるということです。この中でも地球から引かれる重力が最も大きいものです。普段意識せずに暮らしていますが、この力に逆らうと、身体に多大な影響が及びます。

外来での主な症状が頭痛、肩こり、腰痛ですが、重力に逆らう動きが身体の本質である脊椎に慢性的に負荷をかけ、変形を来し、周囲の筋肉や神経が痛みを引き起こしていることが多いようです。

身体の中に備わった自然治癒力を引き出すためには、外部の大きな自然力に逆らわないことが何よりも重要です。



院長語録

毎朝の朝礼での一訓をご紹介します。

●現在(コロナ禍)のような状況でも求められる医療は存在する。
漫然とせず、患者さん一人一人にオーダーメイドで対応するように。